

個票3 生物の成長に応じた移動などを考慮した生息空間の確保

〔農1(1)②1-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
配慮事項	生物の生息・生育空間のネットワーク化		
配慮事例	エココリドーとしての道路法面の緑化や河川（水域）の連続性の確保		

●生物の成長に応じた移動などを考慮した生息空間の確保

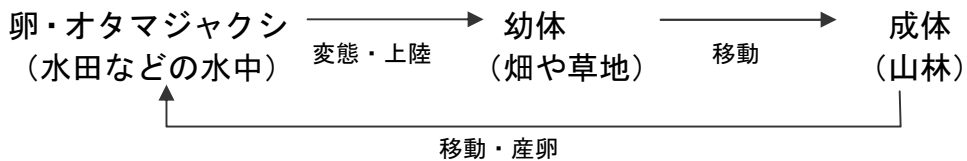
【解説】

農地やその周辺に生息する動物の中には、農地間や農地と樹林間を行き来する種類があります。このような生物の生息環境を確保するためには、その生活史に応じて生息場所が的確に接続されていることが重要です。

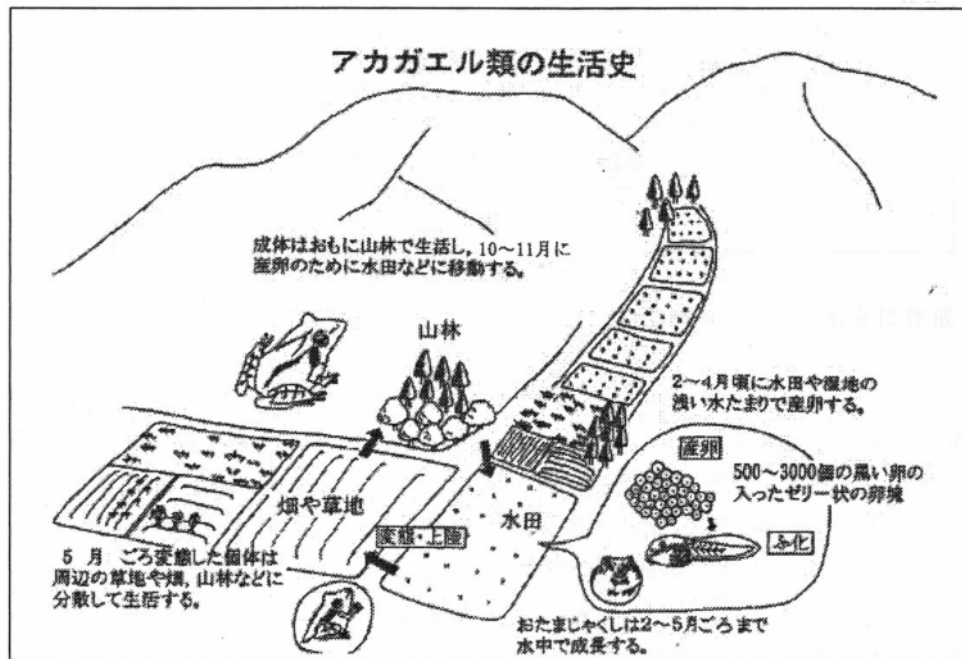
【具体的な工法・配慮事項】

●アカガエル類の生活史に合わせた生息空間の確保

カエル類やサンショウウオ類は、成長段階に応じて、水辺と林を行き来して暮らしています。そのため、これらを保全対象とする場合は、林と水辺の環境を保全し、これらのつながりを確保する必要があります。

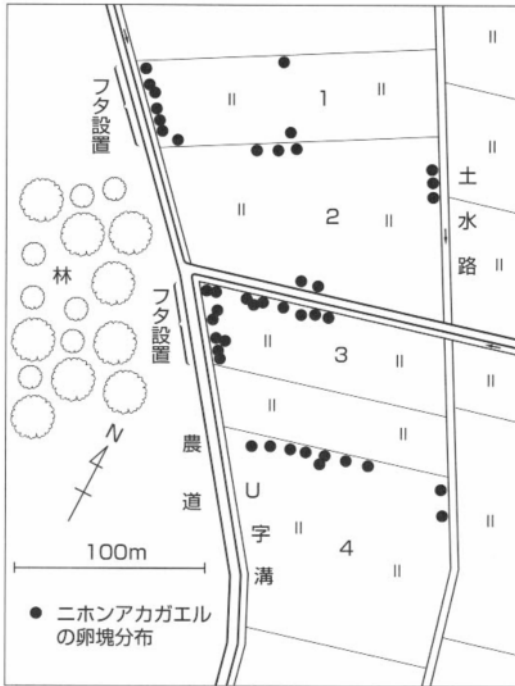


内容



出典:3

**【事例】**



2001年の蓋設置状況と卵塊の分布

出典:2

**【場所】**

栃木県河内町西鬼怒川地区

**【環境配慮の内容と方法、工法】**

- ・ニホンアカガエルの生息地において、ほ場整備の結果、繁殖場所である水田と、非繁殖期の生活場所である林地との間にコンクリートU字溝の水路が設置され、ニホンアカガエルの移動が阻害されてしまったため、影響を軽減するため、U字溝の一部に木製の蓋をかけた。
- ・その結果、蓋をした水路に面した水田では、水路側にニホンアカガエルの卵塊が集中して産みつけられ、ニホンアカガエルが林地から水路の蓋を渡って水田へ入ったことが示唆された。
- ・さらに、保全対策としてU字溝の全線に渡って蓋を設置し、さらに耐久性を考慮してU字溝をコンクリート蓋と覆土によって暗渠化する改良を加えた。

留意点

- ・指標性（希少性・地域生態系・ほ場整備の影響等）、農家を含む地域住民等の意向等から総合的に判断し、注目すべき生物（保全対象候補生物）を絞り込みます。
- ・注目すべき生物（保全対象候補生物）やその生息・生育環境、保全すべき景観、事業実施が及ぼす影響の程度など、環境配慮対策の検討に必要な事項について、有識者の指導・助言を得ます。

参考資料

- 1 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き」 食料・農業・農村政策審議会、農村振興分科会、農業農村整備部会、技術小委員会 p22
- 2 「農村の生きものを大切にする 水田生態工学入門」 水谷正一 p134～p140
- 3 「平成 12 年度農業農村整備推進生態系保全対策調査報告書」 農林水産省 農村振興局計画部資源課